

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	12-049	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Drinking in context: the influence of gender and neighbourhood deprivation on alcohol consumption. 生活環境および特性による飲酒：アルコール摂取における性別と隣人の貧困の影響		
執筆者		
Matheson FI, White HL, Moineddin R, Dunn JR, Glazier RH.		
掲載誌		
J Epidemiol Community Health. 2012 Jun;66(6):e4.		
キーワード		
アルコール、隣人、経済状況、飲酒習慣		
要 旨		
目的： 複数の研究より、貧困または裕福な隣人がいると飲酒と麻薬使用のリスクが増加することが報告されている。しかし、隣人の状況と飲酒を性別の観点から検討した報告はない。		
方法： 93,457 人のカナダ人の全国サンプルにおける性別と隣人の貧困と週当たりの飲酒習慣（飲酒杯数）について多層ゼロ膨張ポアソン回帰を用いて分析した。性および隣人の貧困との間の交互作用は他の潜在的リスク要因を調整したモデルで確認した。		
結果： カナダ人の 53%が昨年中に少なくとも 1 杯飲酒したことを報告した（男性 61%，女性 46%）。飲酒者のうち、週の平均飲酒量は 6.4 杯で、男性では 7.9 杯、女性では 4.6 杯だった。近隣の貧困状況は、独立して週の飲酒量と関連していた。多層分析では、男性のみで隣人の貧困と飲酒は U 型の関連を示した。最も貧乏な隣人のいる男性は、裕福または中流層の隣人のいる男性に比べて週の飲酒量が多かった(週当たりの飲酒量順に 8.5 杯、4.5 杯、3.7 杯)。女性では、隣人の貧困状況と飲酒に関連はみられなかった。		
結論： 本研究により性別に特異的な健康障害（アルコール関連障害など）があることがわかったため、健康に関する政策やサービスは、性別に検討することの必要性が示唆された。公衆衛生と一次予防のための取り組みは、治療を通じた男性のリスク受け入れ行動、予防と健康的な生活習慣構築を目的とした文化的、教育的なメッセージに焦点を当て活動することである。		